

さぶりめんと

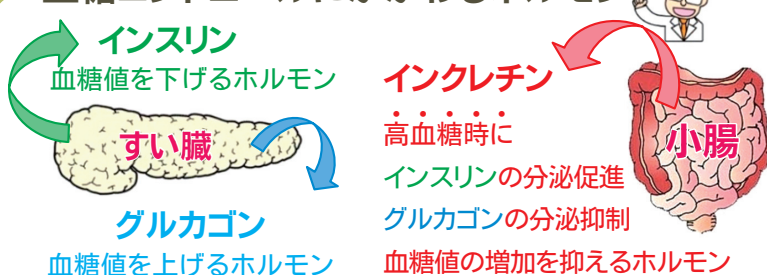
糖尿病の最新薬物治療

内科 山本 恒彦

糖尿病とは？

血液中にブドウ糖がたくさんあふれた状態(高血糖)が慢性的に続く状態を言います。糖尿病は、自覚症状がほとんどなく、失明、腎不全、心筋梗塞などの重篤な合併症を引き起こす恐れがあります。健康な方はインスリンという血糖値を下げるホルモンによって、高血糖状態が続かないようにコントロールされています。糖尿病の方は、このインスリンの出方が悪いか、または効き具合が悪くなく、多くの方はその両方が複雑にからみ合った状態になっておられます。

血糖コントロールにかかわるホルモン



糖尿病の薬物治療は？

ここ数年で糖尿病領域における薬物治療は大変進歩しました。これまでには内服薬とインスリン注射が用いられてきましたが、最近、血糖値が高い時にだけ働く「インクレチン製剤」の登場により、薬物治療の選択の幅が大きく広がりました。

「インクレチン」とは、食事によって腸から分泌され、すい臓に作用してインスリン分泌を促進したり、グルカゴン分泌を抑制して、血糖値を下げるホルモンです。これらの作用は、血糖値が上昇している時にのみ働き、血糖値が正常の時には働きません。「インクレチン製剤」は、この作用を利用した糖尿病治療薬です。その特長は右の通りで、良い効果がたくさんあります。ただし、すでにインスリンを分泌する力が弱まっている方には不向きで、そのような方は早期にインスリン注射を始める必要があります。

当院では、お一人おひとりに合った治療を行っています。お困りの方は、遠慮なく内科外来へご相談ください。



糖尿病の治療法は？

最も重要かつ優先すべきものは、何と言っても「食事療法」です。次に運動療法、最後に薬物療法です。ですから、いくら良い薬が出ても、食事療法をきちんと守ることができなければ、その効果は半減しますし、長続きしません。



糖尿病治療の基本



食事療法が一番大事！

インクレチン製剤の特長

- 体重が増えにくい！
- 血糖変動が小さくなる！
- 低血糖にならない！
- すい臓の機能を保持する！
- 動脈硬化の進展を抑える！

最後に…

「一病息災」

糖尿病をもちながらも、元気で楽しい人生を謳歌してください！
そのために私たちは全力でお手伝いさせていただきます！

理念

基本方針

●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」の中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者様の権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

イメージキャラクター
がれろっこ

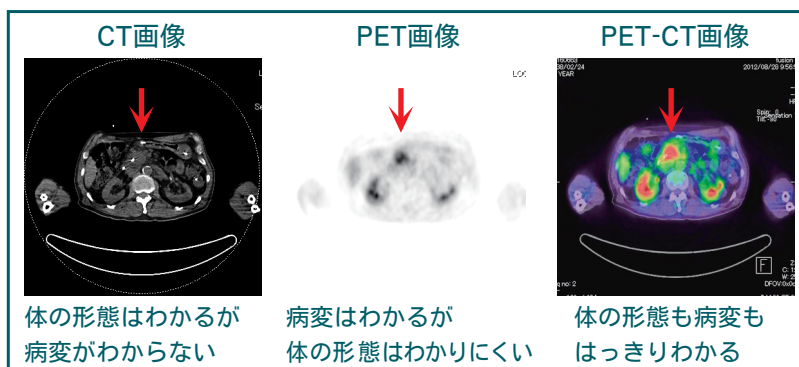
兵庫県において、がんは、昭和53年に三大生活習慣病(がん、脳血管疾患、心疾患)による死亡率で、脳血管疾患を抜いて、死亡原因の第一位となりました。脳血管疾患、心疾患による死亡率がほぼ横ばい状態であるのに対し、がんによる死亡率は年々増加しています。この状況下で、がんをできるだけ早期発見し、また、早期治療につなげていくことは大変価値があることだと考えます。早期発見のためには、まずがん検診を受けることが重要です。とはいえ、症状もないのに全身の検査を受けることは、なかなか難しいことだと思います。



しかし、**PET-CT検査は、一回の検査で全身の病変を見ることができます。また転移・再発の発見に優れるため、がん検診にとっても適しています。**この数年で広く普及し、がん診断の分野では欠かすことができない検査となりました。PET-CT検査を実施している医療機関は、兵庫県内で13施設(2012年8月現在)あり、当院でも、毎年1,000人以上の方が検査を受けておられます。

PET-CT検査とは? ~さらに進化したがんの画像診断法~

一般的に、がん細胞は正常細胞に比べて多くのブドウ糖を取り込みます。FDGと呼ばれるブドウ糖に似た弱い放射線の出る薬剤を体内に注射すると、がん細胞に多くの薬剤が集まり、そこから放出される放射線をPETカメラと呼ばれる特殊な検出器で撮影することで、がんの有無を調べることができます。ただ、PET検査では正確な位置を確認することは難しく、がんの位置は別にCTで撮影して確認していました。しかし、**PET-CT検査は、一度にPETとCTの両方の画像を撮ることが出来るので、より早くより正確に、がんの大きさや形・位置を特定することができます!**



PET-CT検査のメリット

- **一度に全身の検査が可能** 臓器ごとにいくつもがん検査を受ける必要がありません。
- **楽な検査** 検査薬を注射して1時間安静の後、検査用の服を着たまま検査台に30分間横になるだけです。特に、大腸がんや乳がん、子宮がんなどの検査にありがちだった苦痛や不快感、精神的負担などはありません。
- **安全で痛みもない** FDGがほとんど副作用を起こすことのない薬剤であり、心配することなく検査ができます。
- **良性・悪性の識別** 今までの画像検査では判断に悩むような腫瘍について良性、悪性の判断ができます。
- **転移や再発の発見** 以前では見落とされがちであった転移や再発に優れます。

ただし、PET-CT検査は、万能な検査という訳ではありません。1 cm以下の小さいがんや、糖代謝の低いがん、がんの存在部位によっては、診断が困難な場合があります。そのような場合は、CTやMRI、超音波、血液検査などを併用した総合的な検査を受けることで、より確実にがんを見つけることが可能となります。がん治療後の経過観察では、再発や転移をできるだけ早く見つけることが大切です。PET-CT検査は、それらの診断に威力を発揮します。しかも、2010年4月に、FDGを用いたPET-CT検査は、早期胃がんを除く全ての悪性腫瘍への健康保険の適応が認められました。PET-CT検査の実施や保険適応となるためには、医師の判断が必要となりますので、かかりつけの先生もしくは当院(核医学診断科)にご相談ください。

独立行政法人 労働者健康福祉機構 **関西ろうさい病院**
 尼崎市稲葉荘3-1-69 TEL 06-6416-1221(代)
 HP <http://www.kanrou.net/>
 携帯版HP <http://kanrou-mobile.jp/>
 ブログ <http://kanrou.blog106.fc2.com/>
 発行人 林 紀夫 編集人 堤 圭介

